

Y05a 研究データを使った教育コンテンツのカリキュラムに沿った天文関連講座への実装対応

玉澤春史（京都市立芸術大学）、鴨部麻衣（京都大学）

大学などに所属する研究者が研究データ含め自らのもつ知見を小中高校に出向いて伝える出前授業や一般市民向けの各種講座は、単発の特別授業のほかに通常授業などのなかにくみこまれる場合もあり、この場合はすでにあるカリキュラムと整合性をとった上での授業展開が必須である。京都大学花山天文台では、2015年より来台者参加型体験学習のコンテンツとして、花山天文台で取得した黒点スケッチのデータによるバタフライダイアグラム作成「みんなで作るバタフライダイアグラム」を行っているが、2017年より依頼により学校や一般講座での展開も行っている。作業であるため一定の時間をかけるが、限られた時間内で行い、かつカリキュラムにそった内容を行うためには、提供側と講座側の綿密な連携が必要である。2018年10月、星のソムリエ京都による「星空案内人養成講座」のうちの、天文・宇宙に関する基礎知識を学ぶ担当回の一部としてワークショップを行った。また、今後も2019年初旬に予定されている京都工学院高校での実施は高校地学カリキュラムとの整合性をとって実施する予定である。「主体的、対話的で深い学び」（いわゆるアクティブラーニング）の教材として研究データを活用することは有意義である反面、すでにあるカリキュラムとどのように整合性をとっていくかが課題であり、ワークショップだけでなく講義全体、また授業や講座全体の構成ともバランスを取る必要がある。本講演では実際の現場での対応と、その反応の分析について報告する。